

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習 II		
担当者(Instructors)	橋 廣	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

総合演習 I に続き、「教育と発達に関する現代的課題の心理学的検討」を主なテーマとし、より深い情報収集を行いまとめ、心理学実験や調査研究を行い、データ分析の方法について学習する。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、多面的な考え方を取り込み、協働して問題解決することを目的とする。なお演習は、週によって対面授業とオンライン授業を使い分けて実施する。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業の内容に応じて、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行う。5回程度オンライン授業を実施する予定である。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	後期の総合演習の運営方針などについて説明する。大学祭の企画・運営を検討する。	<input type="checkbox"/>
第2回	研究計画	総合演習 I で調べた先行研究を基に、研究計画をたてる。	<input type="checkbox"/>
第3回	予備実験・予備調査	予備実験あるいは予備調査を行ってみる。	<input type="checkbox"/>
第4回	実験・調査の実施	実験あるいは調査を実施する。他の演習生の実験や調査の参加者にもなる。	<input type="checkbox"/>
第5回	実験・調査の実施	実験あるいは調査を実施する。他の演習生の実験や調査の参加者にもなる。	<input type="checkbox"/>
第6回	大学祭の準備 (1)	大学祭の運営の詳細、役割分担を決める。	<input type="checkbox"/>
第7回	大学祭の準備 (2)	大学祭の事前準備をする。	<input type="checkbox"/>
第8回	大学祭への参加	演習生全員で協力して大学祭に参加する。	<input type="checkbox"/>
第9回	実験・調査のデータ分析	実験あるいは調査から得られたデータの分析をする。	<input type="checkbox"/>
第10回	発表準備	研究発表の準備(資料作成)をする。	<input type="checkbox"/>
第11回	研究発表 (1)	研究発表を行い、討論に参加する(前半)。	<input type="checkbox"/>
第12回	研究発表 (2)	研究発表を行い、討論に参加する(後半)。	<input type="checkbox"/>
第13回	演習活動報告書の作成 (1)	編集委員を中心に演習生全員で演習活動報告書を作成する。	<input type="checkbox"/>
第14回	演習活動報告書の作成 (2)	演習活動報告書を完成し提出する。	<input type="checkbox"/>
第15回	まとめ	後期演習活動のまとめを行う。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

各回のテーマに関する内容について、事前提示された資料などを予習する(2時間程度)。事後学習として、授業の中で課題となった事柄に積極的に取り組み、理解を深める(2時間程度)。

## ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポートは翌週フィードバックし、解説とともに解答例を提示し、全体で共有する。

## ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
--------------	-------------------	-----------------

知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	学びの基礎となる社会、文化、自然等に関連する幅広い知識を習得しながら専門知識を育み、それを活用することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	基礎学力を踏まえた専門知識と自らの経験を基に、創造的に考えたうえで、課題についての的確に判断し、自在に表現、発信することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	多様な人々の中で自己を理解し、主体的に他者と協働して問題を解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
研究発表の内容 (30%) 毎回授業時に提出する課題レポート (40%)				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		